



CHARTERED SEPT.11.1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2020



2019 - 20 会長主題

もっと地元を身近に感じようぜ！

あずさ部長	赤羽美栄子 (松本)	「あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために」
東日本区理事	山田敏明 (十勝)	「勇気ある変革、愛ある行動！」
アジア太平洋地域会長	田中博之 (東京多摩みなみ)	“ Action! ” 「アクション！」
国際会長	Jennifer Jones (オーストラリア)	“ Building today for a better tomorrow ” 「より良い明日のために今日を築く」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠・金本伸二郎
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

2020年 5月
 <EF/JEFの月>

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため
 5月の例会およびヨルダン会は
 中止します。

山手クラブ最後の2ヶ月、メンバー間の交信を途絶えさせないよう皆さんと一緒に努力したいと思います。

会長 浅羽俊一郎

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
 義務はすべての権利に伴う 』
 “ To acknowledge the duty
 that accompanies every right ”

今月の聖句

あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

コリントの信徒への手紙 I 10章 13節

山手クラブ解散とコロナ感染症のことが気になっていて、選びました。(浅羽)

5月 HAPPY BIRTHDAY

4月報告

会員在籍数	11名
例会 中止	
	メネット 一名
会員出席率	— %
ゲスト・ビジター	一名
	合計 一名
ニコニコ	— (累計 25,074円)
B F 国内切手—g	外国切手—g

会費の納入は、会計(金本)への納入または下記銀行口座への振込みをお願いします。
 三菱 UFJ 銀行 高田馬場駅前支店
 普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

4月例会・ヨルダン会 中止

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い
開催を中止しました。

おたより

<上妻英夫さん> 「腰痛に つつじと励ます
若葉柿」 腰に手を当て外に出ると歩道にはつつじ
が満開 柿の若葉が朝風に揺れて 元気を出せと
言われて居る様に見える。

<戸坂昇子さん> 解散例会も中止とのことで、
やむを得ない状況とはいえ、残念ですね。
本部事務局も今週（4月6日）からは一部テレワ
ークを取りいれながら仕事を進めております。
一日も早い終息と、皆さんお一人おひとりのご健
康をお祈りしております。

<増野 肇さん> 最後を迎えるにあたっての
コロナウイルスの騒動が重い存在になっていま
すね。会長の聖句の選択が身に沁みます。そして、
見沼田んぼの写真が救いになっていますね。
6月の例会が開かれることを祈っています。

<吉田明弘さん>（東京西）いいですね。「東京
山手クラブ ラストメンバーズ」の考え方。私は
これまで、メンバーの退会を「ドロップ」という
ことにけしからんと思っていました。人類の死亡
率100%という事実を認めない、しかも名誉ある
退会をも侮辱することだと、文句を言ってきたつ
もりです。「むかしは、おれもワイズでずいぶん
やったもんだ」という人が地域に大勢いた方が
良いに決まっています。私は、退会しても堂々として
いたいと思います。

吉田さま

嬉しいメール本当にありがとうございます。
他クラブのメン何人かと「ラスト・メンバーズ」
を共有したところ大方好意的に評価してくれまし
た。とにかく有終の美を飾って終わりたいです。

山手クラブの歴史を繙くと、先達・先輩の
ためにもそうしたいです。この感染症さえなけれ
ば・・・

山手クラブ最後までよろしくお願ひします。
浅羽俊一郎

YMCAニュース

山手コミュニティーセンターも

5月末まで休館としました。

職員も基本は在宅で、オンラインで会議をして
います。

ユースリーダーたちもオンラインリーダー会
がスタートし、つながりが弱まらないよう工夫
をしています。英語クラスやピアノクラスなど、
参加者も講師も安心して再開できるように、
こちらもオンライン授業を検討中です。

私はたまに出勤をしていますが、自転車通勤に
しました。

免疫力を高めて、皆さんも健康にお過ごしくだ
さい。

星住秀一

いつの間にか骨折

尾内昌吉

「骨がスカスカになると荷物をもちあげる、尻
もちをつくなどちょっとした事で背骨が潰れてし
まいます」 正にこの症状が妻に起こってしまい
昨年10月救急車で病院に搬送されて即入院、
「第11胸椎圧迫骨折」「骨密度22%」と診断され
ました。約3ヶ月の入院、その間介護認定を受け
「要介護5」と認定され今年1月より自宅で療養
を続けております。

結婚以来60年、二人とも一度も入院した事が
ありませんでしたが終活の一つとして「老老介護」
があたえられ生活が一変しました。

山手クラブの皆様にはクラブ解散を審議する総
会をはじめ例会、ヨルダン会を欠席致しました事
を深くお詫びもうしあげます。

新型コロナウイルスの問題での自宅待機を続け
ていますが、家事全般をこなすのは重労働だと実
感しています。

山手クラブの皆様におかれましても、日頃より
骨粗しょう症には十分御用心されますようお願い
申し上げます。

.....

マスクと松田 稔がつながった

浅羽俊一郎

4月に入るとテレビのワイドショーと読書の毎日(3回外出、内2回は見沼田んぼ)。ドットコムメールはブリテン案内とイベント中止のお知らせ。他のメールもコビド19絡みで、それこそメールに滅入る毎日でした。

ドットコムに元気なメールを発信したいと思っていた矢先、それを察したか、あるメンが連絡してきました。友人たちがマスク作りで奉仕を始めました。こういう時こそワイズもマスク作りなど奉仕できるというのです。それが4月11日発ドットコム【#7080】「つながりマスク」案は如何でしょうか?となった次第です。

反応色々ありました。賛同者、実践報告、激励者、サンプル案。私個人宛にも好意的なメールが届きました。その一つが東京西クラブの吉田明弘メンからでした。つながりマスクをきっかけに一文を書こうと、資料を探していたらネット上に10年前に吉田さんご自身が書かれた『『おおブレネリ』の訳詞者は、だれ?』(Historian's View 10)が出ていたので驚かされた、というもので、その文章も添付されていました。

この有名なキャンプソングの作詞者松田 稔がご自分の知っている大阪 YMCA の故松田稔氏と同一人物だと気づいたことに始まり、歌の由来と訳詞の経緯、松田主事の人となりまで書かれています。本稿には松田氏とワイズに触れた箇所を下記に転載させていただきます。

「当時の大阪YMCAに詳しい奈良信さん(東京山手)にお尋ねしたら、歌がうまく、漫画も書いて、子どもたちに人気のある YMCA 若手スタッフだったとのことでした。これは奈良信さんの少年時代の記憶であって、敗戦直後、総主事奈良傳さんが上海から帰還前の時期には、松田さんが大阪YMCAと大阪ワイズメンの中心的存在だったのでしょう。

松田さんとワイズメンのかかわりは、奈良傳さんが、「日本区報」1961年5月号に『松田稔兄と私』に書いています。(ワイズ読本にも転載)。松田さんは、昭和初年、大阪クラブ発会後には、奈良傳主事を助けて、ブリテン作成などの事務を担当し、戦争末期にはメンバーとなりました。戦後は1947年から5年間、区理事を務めた奈良

さんを助けて、区書記として日本区の復興、新生を助けました。名簿作成などの仕事をすべて引き受け、奈良傳さんは「ワイズ半分、YMCA 半分に働き、このような主事は二度と出ない」と書いています。ワイズメンズクラブが YMCA 運動の先駆的な役割を担っていた時代でした。」

吉田氏も言及されていますが、キャンプソング集「楽しい歌」を松田氏と一緒に編集した元横浜 YMCA 総主事の**高橋四郎氏**(当時山手 Y 主任主事)は私の所属する山手クラブのチャーターメンバーでした。ここに私と松田氏がつながりました。

(吉田氏→私→山手クラブ・奈良氏→高橋氏→松田氏!) 因みに日本各地で毎月のように歌われている「YMCA の歌」を作詞し、ワイズソング「いざたて」を訳詞した淵田多穂理氏も山手クラブのメンバーでした。こうして過去の出来事や人物を介して今の自分が先達とつながっていることに気づかされ、一つ世界が広がるという実感がありました。

ついでですが、こう書いていて、「ズンゴロ節」が新版「たのしい歌」に掲載されたことで、私が別ルートで松田・高橋の両先達と細い線で繋がっていること。さらに衣笠メン(埼玉クラブ)や笈川元メン(現日本YMCA 同盟会長)と始めた「キャンプソングの会」で今では日本各地の YMCA・YWCA のキャンプソング愛好者たちと結ばれていることにも気づかされました。

皆さんもワイズや YMCA という歴史ある団体に繋がっていると、自分の世界が想像もなかった繋がり・広がりを持ったという体験をされたことがあると思います。今回私は吉田メンの一文を読んでそのことを実感しました。

思い起こせばこの一文はあるメンからの一本の電話がきっかけで出来ました。いずれ別のメンの違うメールで古今東西の人・出来事とつながれることを期待しつつ、しばらく続くであろう束縛の毎日を有意義に過ごしていきたいです。何よりも「つながり」を大切にしていきたいです。

約束破りのお詫びと泣き言

金本 伸二郎

昨年 65 歳を迎えた私は 2 月には 40 年以上にわたって勤めてきた会社を定年退職で終えました。そこで、退職した私は、今まであまり積極的でなかったワイズの活動を、積極的・前向きにしていこうと宣言をしたのです。ところが、4 月以降新たな職を得たことを理由とし、結局気持ちだけが空回りし、宣言を実行しない中、2019 年の冬を迎えてしまいました。ですから、宣言を実行していたとしても同じ結果になっていたかもしれませんが、山手クラブ解散については忸怩たる思いでいっぱいですし、本来何かを言える立場でもないことも承知で書かせていただきます。

山手クラブの解散に当たっては、いくつかのことが語られ、その一つに「山手センターが山手クラブの支援を本当には必要としていない」のでは、というものがありません。私は 2009 年に山手クラブに入会し、初めて YMCA と接点を持ちました。学生時代から YMCA の存在は知っていたものの、どちらかという忌避して遠い存在でした。爾来山手クラブを通して YMCA を見る、それも山手センターを通して見るようになりました。そんなことから、山手クラブ不要説には、いささか残念な思いもしましたし、少々この見解には異を唱える、あるいは唱えたい者です。

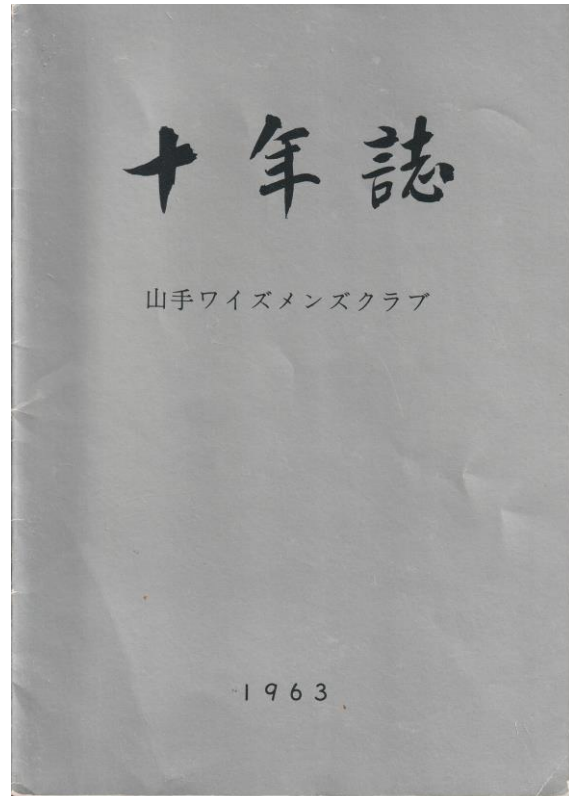
目にみえる形に現れない精神的な支えはあるのか、問われるかもしれませんが、山手クラブは山手センターを精神的に援助していたと思われるなりません。それは私の幻想なのかもしれませんが、何かがあった時、最後はあそこに頼れば何とかなる、というような、そういう存在だったのではないかと。「YMCA のためのサービスクラブ」の務めを果たしていたと思うからです。

ワイズメンズクラブの一面のみをフォーカスしているの、意見を異にする方は多くおられると思いますが、同じようなことが、全てのワイズメンズクラブで起きているのかもしれませんが。

さて、山手クラブを離れると、私と YMCA との関係はどうなるのでしょうか。新たなワイズメンズクラブは住環境に即したところに求めています。そうすると山手センターとの関係は・・・などと考えてしまいます。生まれ故郷は忘れ難いが、新しい酒は新しい革袋に入れろ、とあるように、

これからは新天地で生き、山手を忘れてしまうことが正しい姿とは思えません。いずれにしろ、これからもワイズと YMCA には細く長く付き合っていけたらと考えています。

.....



温故知新^{ふる}—^{たず}故きを温ねて新しきを知る

東京山手クラブの「十年誌」（1963 年刊）の中から、大先輩方（敬称略）の言葉をご紹介します。

後藤安太郎（初代会長、初代山手ランチ委員長、オリジン電気社長）

「ワイズメン族に二種類ある。一つは YMCA から生まれたワイズメン、いま一つは YMCA を生むワイズメンである。古いワイズは概ね前者に属し、新しいワイズには後者に属するものがある。山手ワイズはどちらに属するだろうか。それは第一であるが、同時に第二でもあることを希うものである。」

「ワイズメンズが毎月集まって楽しいアッセンブリーを催し、信仰の友情を高める事は、よいことであるが、それ自体がワイズの目的ではなく、それを通して、より高いワイズそのものの発展への奉仕の力を沸かせたいものである。少なくともそういうプロジェクトを常にもちたいものである。」

（5 ページに続く）



これからのワイズメン
後藤 安太郎

ワイズメン族に二種類ある。一つはYMCAから生れたワイズメン、いま一つはYMCAを生むワイズメンである。古いワイズは戦前戦中に属し、新しいワイズには後者に属するものがある。山手ワイズはどちらに属するだろうか。それは第一であるが、同時に第二でもある事を言うものである。人の生涯でも、親から生んでもらうばかりでなく、次の世代を生む親となるのであるから、ワイズもそのような役割を果さないで、一人前のワイズであるまい。

日本のYMCAは83年の歴史をもち、歴史な歩みをつけて来ているが、昨今のわが国の経済、産業の成長率の高いに比べると、YMCAの発展は、質的にも、量的にも、もっと伸びるべきではあるまいか。その原動力を私はワイズメンクラブに期待する。

ワイズメンが毎月集まって楽しいアッセンブリーを催し、信仰の友情を高める事は、よいことであるが、それ自体がワイズの目的ではなく、それを通して、より高いワイズのもの発展への専任の力を薄かせたいものである。少なくともそういうプロジェクトを常にもちたいものである。

山手ワイズメンクラブ誕生10周年に私はその責任を感じる。(初代会長)

- 2 -

↑ 後藤初代会長

加美山 節 (2代会長)

「山ノ手の文教・住宅地区に乗込んで、学生の為に学舎を経営、教育事業に、グループワークに、直ちにYの運動の展開を試みようとしたのが、我が山手ブランチである。敷地の選定、会館の建設等に同志の夢は着々と実現されて、開館の日を迎えたが、本館からの補助金に助けられ乍ら、収支面の赤字を1日も早くなくしたいと、職員の方々の助けて日夜努力した当時の人々の労苦も、今から見れば夢の様な話となった。」

木本茂三郎 (第6代東京YMCA総主事)

「山手YMCAも昨年設立10年を祝い、10年の躍進と、今日では山手YMCAが内に持つ可能性の大きさを、われわれ一同が感じている。」

「このYMCAは最初から優れた委員会をもった。そしてその委員は大半がワイズの会員であった。またワイズの全員がYMCAの現地に根をもつ成長を考えられた。若い会員を育てることも考えられた。山手YMCAの今日の成長は、山手ワイズに負うところが大きいことを、今改めて思うのである。」

木本総主事 →

辻村克己 (3代会長)

「ワイズメンとして一番印象の深いのは東京クラブに所属していた昭和27年に、設立されたばかりの山手ブランチの活動を助けるために、ワイズを作ることになり、東京クラブの若手7名が力を合わせて努力した事で、その人々の名を10周年に当り特に記録に残しておきたいと思ひます。

篠田光信氏、阿部季夫氏、早川保昌氏、吉江誠一氏、高橋四郎氏、加美山 節氏 辻村克己」

高橋四郎 (初代山手YMCA主事)

「1952年の秋、山手ブランチが創設されて間もなく、山手の中心人物が殆ど東京ワイズメンズクラブのメンバーであったことから、山手にも独立したワイズをつくるべきだという案が出た。

1953年1月の東京ワイズ例会、(中略) 辻村克己氏の口から第一声ははなれた。」

<参考>

- 1952年9月1日 山手ブランチ 開館
- 1953年2月25日 山手クラブ設立準備会
- 3月16日 山手クラブ 発会式
- 9月11日 国際協会チャーター
- 10月24日 チャーターナイト
- 山手ブランチ会館披露式、日本区東部地区大会にあわせて開催。
- チャーターメンバーは20名



内に持つ可能性

木本 茂三郎

山手ワイズメンズクラブができて10年を数えることとなった。すでに過ぎ去った歳月は人によって短くとも考えられ、また反対に長くとも考えられる。いまが山手ワイズの場合はこの10年は長かったと思う。それはなしたげた働きを考えると、徒らに過ぎ去ったのではなく、山手YMCA発展のために、考慮を払われた働きがされたからである。

山手ワイズメンズクラブ設立のことが話されはじめたのは、1953年になってからである。山手YMCAはその前年の9月に事業が開始されているから、今日のナンバから考えると少し遅れたようにも思える。2月25日は設立準備の会合があって、後藤会長、辻村幹事で進むことがあり、第1回の例会が3月16日であった。10月24日に東部大会があって、その前チャーター受領のお祝をした。

山手YMCAも昨年設立10年を祝い、10年の躍進と、今日では山手YMCAが内に持つ可能性の大きさを、われわれ一同が感じている。10年の年月はここまでの成長をさせてくれたのである。このYMCAは最初から優れた委員会をもった。そしてその委員は大半がワイズの会員であった。またワイズの全員がYMCAの現地に根をもつ成長を考えられた。若い会員を育てることも考えられた。山手YMCAの今日の成長は、山手ワイズに負うところが大きいことを、今改めて思うのである。

山手ワイズメンズクラブが、山手YMCAの次の10年の進展にも、大きな中心の力になっていただくことをお願いするものである。(東京YMCA総主事)

- 6 -